新聞を掲載します。お楽しみくだ

このページでは「ご当地新聞」

みなさんが住む地域を題字に ・西播地域をクローズアップ と題した企画を展開します。

504

船場・城西地区を巡る

兵庫県立歴史博物館蔵

高橋秀吉コレクション

8月、市民らの寄付で新庁舎が 龍野町に移転が決まった。

に年 が、陸軍連隊の設置などに伴い 舎は姫路城三の丸広場にあった 和自用自日に誕生した。県庁 飾磨県は元の姫路県を母体に

な建物だ。なぜ幻なのか? てくれた。洋館のような瀟洒

県庁があった。 年。それ以前は飾磨県で姫路に 併合されたのはその8年後の昭 ⊗ら8年だが、播磨が兵庫県に はまだ先」。兵庫県の誕生は1 一切とこれる」「一日の母

- OI 節目を盛り上げた。でも姫路で した催しが多々開かれ、歴史の らり周年に無いた。周年を冠に 2018年、兵庫県は県政1

政府が飾磨県の兵 た同公日、 終え、正式移転を翌日に控え ところが一般公開や落成式を 完成した。

一郎さん(3)が白黒写真を見せ 言われてます」と同会の中山栄 更地が広がる。「幻の庁舎と が。 ある最後の県庁跡地に足を連ん

城西地区西端の姫路市龍野町に 会」メンバーの案内で、船場・ 会えるまちづくり船場城西の 地元のNPO法人「歴史と出



金岡製菓 (姫路·博労

クだそう。

屋台は地域の誇りを象徴する。

こ数日漬け込んだ宮崎県産の豚肉を 3 西村浩一さん (75) は「秘伝のたわ

黒毛の高級ブランド牛「姫路和牛

秘伝たれの名物焼

24 灰 安積精肉店

(姫路•博労

伝統製法を守る金岡直樹さん(後列左)、 妻の咲千子さん、3代目の忠善さん=姫

砂川漆工芸

(姐路·西新町)

手造りにこだわる橋本博和さん

姫路市吉田町

繋 门 期 ?

もう始まってま

彩の職

大学卒業後に塗師となり、

として親しまれてきた。

どを提供する一方で、

焼き豚が名

1972年から船場で安積精肉店を営

前を通ると甘く香ばしい匂いが漂 日焼いてます」。焼くのは午前。

प्र 統の味覚ねじり

でなく、周辺を散策する観光客らが

姫路城に近いため、

地元住民だけ

食欲をそそられる。

りんとうが並ぶ。 の中に大ぶりで 食感に類が緩む。 備えしつ、どこか素朴で優しい味と 油菓子」と記されたレトロな箱 「ねじり棒」形のな 歯ごたえや甘みを

が残る職人の町。

砂川さんは「風情

日、後日と氏子地域に密り添い続け り然べて引き渡してからも、

周辺は、ほかにも漆塗りの工房

生地を作り、 金岡直樹さん(41)を中心に手作業で け綴べ。 民家のような店舗兼工場で4代目の 1929 (昭和4)年の創業。 揚げる伝統の製法を受

落ちる恐れ

C079 · 296 · 0298

主文も結べないとか。 買い求めに来ることも。

午後7時半。

焼き豚は100

れた播磨のかりんとう。直樹さんは T079 · 292 · 3464 陽百貨店(姫路市南町) 温糖味16本入り1280円(税別)など。 夏は冷やすとおいしいです」。山 江戸期、 姫路藩の産業振興で生ま 、解黒シ

職人道を歩み続ける砂川隆さん

贴路市四新町

小審者の侵入

田智樹さん=姫路市博労町

ん(左)と隣の焼き肉店を切り盛りする囚 一町歩きがてら寄って」と話す西村浩一

は今も変わりません」。 2079・292・



7 香る手造り 24

慶

さん(70)は苦笑する。歴史の道は長 ありますが…」 以上前の)元禄の創業という記録も 何代目かは不明です。 と店主の橋本博和 (300年

れを元にしたみん、 心 わい深い。 みそ1 1400円台~800円 使いじっくり発酵させた麹や、 代を感じさせる店兼工場の建物も味 懐かしい味は根強い人気を誇る。 供する。 卸売市場を通じて飲食店などにも提 今は珍しい浅い箱のようなふたを いじっくり発酵させた麹や、そ 販売。 甘酒500~360円など。2079・292 近所の人ら常連のほか、 手造りなのではの優しへ 甘酒などを製造 郡

4 飾磨県は吸収されてしまいま

(化)が教えてくれた。 「国策で 歴史研究家の藤原連雄さん

地域に根差する店

too は県庁として使われずに終わっ 新庁舎 存続期間はわずから年、 飾磨県の の併合を決定。



短路市地内町、船場本徳寺

即さん(左から2人目)、柴田武志さん(右端)

地元の魅力を発信する船場城西の会の中山宋

の人々と辿った。 はまた違う魅力を持つ。地元 わいは、にぎやかな城間辺と し、穏やかな空気が流れる界 伝統工芸の工房などが点在 城西地区。今も古民家や老舗、 四国街道沿いに栄えた船場・ 時代、参動交代の要だった旧 姫路城の西に広がり、江戸

ん。活気を象徴する建物に注ぐ 実現したらええなあ」と中山さ もしてきた。「県庁舎の復元、 ガイドしたり、楽市を催したり 内の船場本徳寺を拠点に町歩き 地元の魅力発信に向け、地区

思いは消えない。

する案を考えたこともある。 元し、住民らの交流拠点に整備 地活用として最後の県庁舎を復 ぎわいを取り戻そうと発足。 同会は病院移転後、地域のに

込めた。 同会の柴田武志さん(で)が力を の活動の原点になりました」 残念でしたが、ことは僕ら

は更地の状態が続く。 ったが、2001年秋に移転後 に。敷地にはその後も病院があ 1914年に火災で焼失し

や日本赤十字社の病院に使わ 兵庫県の支所

せなければならなかったため、 神戸を国際貿易港として発展さ